

## DVを見て育つ子どもへの影響

最近、身近でもDVで別居・離婚協議中家庭、現にDVで悩んでいる家庭等の話が耳に入ってくる。

こうした話を耳にすると、両親間のDVを目にした子どもたちはどういう気持ちなのかなと気になっていた。

そうした折、先日そのものズバリのタイトルのドキュメンタリー番組「子供が見たDV～夫婦間暴力のはざままで～」を見た。

番組で取材されていた母娘は、9年前（当時：少女は5才）に母親と共に父親から逃げて、その後両親は離婚し、中学3年となった今は、DVがトラウマとなり精神科で精神安定剤、睡眠薬を処方され、カウンセリングを受け、また、週4日栄養剤の点滴を受ける母親と過ごしている。

少女は、父親が自分を抱きながら母親を殴っていた姿を鮮明に覚えているという。

少女は、時に情緒不安定な状態になり、突然母親にキレたかと思うと、甘える様子も。

こうした状態は、DVを見て育った子どもの特徴的な症状とか。

母親も精神的に病んでいるだけに娘の甘えを受容できずに喧嘩となり、隣近所から「虐待では？」と警察に通報されることも数回。

駆けつけて「近所迷惑にならないように！」と諭す警官に、母親は「それができないのが、私の病気！」といい、少女は「虐待でないから」という。確かに、喧嘩していない時は、ごく普通の母娘の会話。

最近では、母娘一緒にカウンセリングを受け、母親も「変わらなければ」と職業訓練所でPC練習、少女は高校受験の勉強に励む。

子どもは幼少であればあるほど母親に甘え頼るだけに、両親間のDVから恐怖心を植え付けられ、大人を信頼する心が満たされないと、子どもとしてはたまったものでない。

やはり、母親も子どもから信頼される大人に変わろうとする気持ちになることがまずは大事で、それが母親としての「育て直し」、子どもにとっての「育ち直し」への一歩のような気がする。

さて、話しは飛ぶが、3人に1人の女性が夫からのDV被害を受けていると言われる昨今だけに、女学生の多い授業では、将来DVに合わないよう、付き合う男の本性を見抜く一つの方法として、酒を飲ませ酔った時こそ、脳の上層の働き（理性、道徳感等）がマヒし下層の働きの情動の本性行動が出てくるので、それをしっかり観察・見極めるように！」とヒントを授けている(^\_^)